

**「海外における起業家等育成プログラムの実施・拠点の創設事業」
シリコンバレービジネス拠点 入居者等の募集を開始
～産学官で連携し、日米双方向のオープンイノベーションを実現～**

森ビル株式会社(東京都港区、代表取締役社長 辻慎吾)は、経済産業省より受託した「海外における起業家等育成プログラムの実施・拠点の創設事業」の一環として、2023年秋に、米国・シリコンバレー(パロアルト市)にビジネス拠点(以下、当拠点)を開業いたします。当拠点は、日本と海外のスタートアップ・エコシステムの結節点となることを目指しており、海外展開に挑戦する日本のスタートアップや起業家などが活用できるオフィスやコワーキングスペースを備えるほか、現地の企業と共に、オープンイノベーションに繋がる各種交流プログラムを展開する予定です。この度、当拠点のオフィスおよびコワーキングスペース利用者等の募集を開始いたしましたので、お知らせいたします。

「イノベーション人材の育成」と「世界の先端地域との繋がり」が鍵

経済産業省が令和4年度に公募した「海外における起業家等育成プログラムの実施・拠点の創設事業」(以下、本事業)は、政府による「スタートアップ育成5か年計画^{*1}」の一環として、日本のイノベーション創出の加速と、スタートアップ・エコシステム形成を目的としており、特に世界基準の行動感覚やネットワークを有するイノベーション人材の輩出と、グローバルな先端地域と日本のスタートアップ・エコシステムとの繋がり強化を図るものです。

日本におけるイノベーション創出の加速と、スタートアップ・エコシステム形成の鍵となるのは、イノベーションを担う人材の育成と、シリコンバレーをはじめとするグローバルな先端地域との繋がりだと言われています。日本のイノベーション創出の課題として、起業の際にグローバルな視点を持って世界規模でビジネス展開を目指す企業が少なく、ユニコーン企業^{*2}が生まれづらいことや、いざ世界を視野にビジネス拡大を試みるも、シリコンバレーをはじめとする世界の先端地域のキーパーソンとのネットワーク不足によって、資金調達、人材確保、販路拡大などが困難であることが挙げられます。

本事業は、これらの課題を解決すべく、(1)米国西海岸等における起業家等育成プログラムの実施、(2)米国東海岸及び世界各地における起業家等育成プログラムの実施及びグローバルイベントの開催、(3)シリコンバレービジネス拠点の創設、を同時に推進するもので、当社は(3)シリコンバレービジネス拠点の創設を受託し、2023年秋以降の開業に向け、この度オフィスおよびコワーキングスペース利用者等の募集を開始いたしました。

日本のスタートアップの海外進出を強力に後押し

当拠点が位置するシリコンバレーのパロアルト市は、最先端ITの研究拠点であるスタンフォード大学やベンチャーキャピタルが集積するサンドヒルロードとも近く、また他国のインキュベーション施設も集積しているエリアです。

当拠点では、経済産業省が進める人材派遣プログラム「J-StarX」開催場所の1つとなり、日本の起業家や学生等を受け入れると共に、現地のアクセラレーターやベンチャーキャピタル等の民間企業、世界トップクラスの大学・学術機関、独立行政法人日本貿易振興機構(JETRO)等の行政機関を含む産学官で連携し、日本のスタートアップの海外進出とエコシステムの成長・発展を強力に後押しします。また、日米のスタートアップ、企業、投資家の交流機会を創出するなど、日米双方向のオープンイノベーションの実現を目指します。



^{*1} 岸田内閣が、2022年11月24日に発表したスタートアップ育成強化の方針(https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/bunkakai/suikusei_dai3/siryou1.pdf)

^{*2} 創業してから10年以内、企業価値評価額10億ドル以上で未上場のベンチャー企業のこと。一般的にはテクノロジー企業とされる。

当社は、引き続き、多様なプレーヤーが集い、対話し、共創する「場」と「仕掛け」づくりを推進し、国際都市・東京の磁力向上に貢献してまいります。

【本件に関してのお問合せ先】

森ビル株式会社 広報室

TEL : 03-6406-6606 FAX : 03-6406-9306 E-mail : koho@mori.co.jp

○ 当拠点のビジョン

人をつなぎ、
知恵をつなぎ、
挑戦をつないでいく。

「This is not a space, but a community」

当拠点が目指しているのは、起業を志す人々によるコミュニティの醸成です。グローバルで活躍する日本のスタートアップや海外進出の準備を進めている起業家や研究者、将来起業家となることを目指す学生など、高い志を持つ挑戦者が集まるコミュニティを形成します。さらに、先人の挑戦から得られたナレッジを蓄積・共有することで、困難に直面しても共に壁を乗り越えていけるイノベーション・エコシステムを創出します。

○ 当拠点の概要

【所在地】

212 Homer Ave, Palo Alto, CA 94301 アメリカ合衆国

【階数・面積】

地上 2 階、地下 1 階 合計約 860 m²(約 260 坪)

【アクセス】

Palo Alto City Hall より徒歩 2 分

Caltrain Palo Alto Sta.より徒歩 10 分

サンノゼ国際空港より車で 20 分(目安)

サンフランシスコ国際空港より車で 25 分(目安)

【その他の詳細はこちら】

シリコンバレー拠点案内資料 [をご参照ください](#)

○ 入居者・利用者の募集について

【募集企業数】

オフィスメンバー(個室利用者) : 5 社程度

コワーキングメンバー : 50 社程度(1 社あたり 3 名まで利用・登録可能)

【募集要項】

シリコンバレー拠点利用者募集要項 [をご参照ください](#)

【応募フォーム】

オフィスメンバー応募フォーム : <https://forms.gle/JmuuSLP1LGi7gKQ26>

コミュニティメンバー応募フォーム : <https://forms.gle/sgHv9gocympHJfXs6>

【参考①】虎ノ門ヒルズのインキュベーションセンター「ARCH」における実績を評価

当社は、「国際新都心・グローバルビジネスセンター」の形成を目指す虎ノ門ヒルズで、大企業の新規事業創出を支援するインキュベーションセンター「ARCH」を2020年より運営しています。「ARCH」にはコミュニティ・マネージャーが常駐し、交流イベントや起業家を招いたセミナー(年230回以上)や、事業創出に向けたマッチング支援(年360件以上)などを通じて、イノベーション創出のための「場」と「仕掛け」を提供。開設からわずか3年で、大企業約120社・約900名に加えて、会員の大企業に限らずスタートアップや自治体も巻き込んだスタートアップコミュニティへと成長を遂げています。

加えて、虎ノ門ヒルズ ビジネスタワーには、世界最大のイノベーションコミュニティ「CIC TOKYO」が開設。CICには既に280社を超える企業が参画し、毎日様々なイベントを実施しており、国内最大規模のスタートアップコミュニティになっています。「ARCH」と「CIC」との間でも、コミュニケーションやコラボレーションを促進することで、様々な相乗効果を発揮しています。

新たに創設されるシリコンバレービジネス拠点では、コミュニティ・マネージャー等を配置し、日本のスタートアップと、海外の企業や投資家とのネットワーキングを活発に推進することが求められており、このたびの事業受託においては、「ARCH」における当社の実績が評価されると共に、シリコンバレーのビジネス拠点と「ARCH」の連携による相乗効果も期待されています。

【参考②】「虎ノ門ヒルズ」におけるイノベーション創出に向けた「場」と「仕掛け」

森ビルは、イノベーション創出に向けた様々な「場」と「仕掛け」によって、「国際新都心・グローバルビジネスセンター」へと拡大・進化を続ける虎ノ門ヒルズの街を舞台に、スタートアップ・エコシステムの形成を推進しています。

大企業の新規事業に特化した「ARCH」(虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー)

大企業の新規事業創出に特化したインキュベーション施設として、2020年4月に誕生。約120社・約900名が参画(2023年3月現在)。豊富なリソースやネットワークを持つ大企業ならではの可能性と課題にフォーカスし、新規事業創出部門の「出島」としてワークスペースのほか、事業創出に必要な知識やマインドセットを獲得するスクール、イノベーションを創出するためのネットワーキング、豊富な経験・専門的な知見を有するメンターによる様々な課題の解決のサポートなどのサービスを提供しています。



世界最大のイノベーションコミュニティ「CIC」(虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー)

マサチューセッツ工科大学(MIT)の卒業生であるティム・ロウ氏とアンドリュー・オルムステッド氏が設立したスタートアップ企業の集積拠点。米ボストン・ケンブリッジ、マイアミ、蘭ロッテルダム等、世界9都市に拠点を構え、これまでにCICを利用した企業は6,000社を数えます。2020年10月にアジア初の拠点として誕生した「CIC Tokyo」には、事業創発を目指すスタートアップ企業や大企業、自治体などジャンルを超えた約280の団体(2023年8月現在)が集い、イノベーションによる社会変革や地方創生に向けて活動をしています。



世界に向けた情報発信拠点「TOKYO NODE」(虎ノ門ヒルズ ステーションタワー)

「ステーションタワー」の最上部に誕生する、約10,000㎡の新たな情報発信拠点。ビジネス、アート、エンターテインメント、テクノロジー、ファッションなど、従来型の領域やジャンルにとらわれず、様々なコラボレーションを促進することによって、新たな体験や価値、コンテンツや情報などを創出し、広く世界に向けて発信することを目指しています。また、「TOKYO NODE LAB」を舞台に、業種や領域を超えた一流の才能や、イノベティブな企業11社が集結。「クリエイティブエコシステム構築に向けた共同プロジェクト」が既に始動しています。



©DBOX for Mori Building Co., Ltd.